

教育目標:	心豊かな三小の子に	○やさしい子	○進んでとりむ子	○考える子	○元気な子
めざす学校像:	『子供たちが明日も行きたくなる学校』をつくるために				
めざす児童像:	互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識をもつ児童 ・社会に対して主体的に関わり合い、社会に貢献することのできる個性と創造性豊かな児童				
めざす教師像:	指導力に優れた教師 ・児童、保護者、地域から信頼される教師 ・組織的な学校運営に進んで参画できる教師				

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	分析コメント	改善策
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
確かな学力の定着	・カリキュラムマネジメントの確立 ・授業改善の推進	・教科横断的な学習の充実を図る。 ・国語科の授業研究を通して児童一人一人の思考力・表現力を育成する。	・週ごとの指導計画には、ねらいと学習活動を明記するとともに、指導記録の作成による振り返りを積み上げ、指導と評価の一体化を推進する。 ・各学年年1回の研究授業を行い、外部講師による指導助言をもとに教材の開発や授業展開の工夫、学習計画の改善を図る。	4	/	4	/	○目標を明確にして授業に臨むことができた。 ○C4thで授業時間を確かめながら指導内容を考え、進めることができた。 ○次の授業を考え、支援の仕方を工夫することができた。 △体育の鉄棒遊びは、7月が高温だったために計画どおりにいかなかった。指導内容の組替えを柔軟に考えていく必要がある。	・達成感を味わわせられるような授業内容の工夫を更に研究する。 ・授業計画や評価を見直しをもって進めていく。
	・ICT環境の有効活用 ・高学年教科担任制の導入	・児童一人1台貸与するタブレット端末等を活用した指導を取り入れ、指導の充実を図る。 ・専門性の高い授業を実施し、知的好奇心を高めるとともに、中学校への円滑な接続を図る。	・ICT機器を効果的に活用し、児童の学習意欲を向上させる。 ・授業コンテンツの開発を行い、個別最適な学び・協働的な学びを生かした授業を実施する。	4	/	4	/	○校内研究の成果と課題を整理し、自分の担当教科に役立てている。 ○プロジェクターによる教材の提示、デジタル教科書、スクリーンやTeams、まなびポケットの活用は、児童の学習意欲に結び付いている。 △児童の学習の定着やICT活用スキルに個人差が見られる。	・教科担任は、担当する教科の指導計画と、学級の児童の動きを把握できるように、校務支援ソフト(C4th)を効果的に活用する。指導計画の一本化を図ること、教科担任制を効率的に実施する。 ・個別最適な学びにつなげるための効果的な指導を工夫していく。 ・ICTの適切な活用場面を引き続き研究していく。
豊かな人間性の確立	・人権教育の一層の充実 いじめの未然防止の徹底	・「すべての人を大切にすまじい言葉」に関連する授業を実施する。 ・場に応じたあいさつや適切な言葉遣いの指導を徹底する。 ・児童の個性を尊重し、自己肯定感を高める支援を推進する。	・教職員の人権感覚の向上を図るとともに、児童の人権意識を高め、いじめゼロを目指す。 ・発達段階に応じて、特別支援教室との連携を図った授業を行うとともに、学校だより等で学期に1回以上特別支援教室の活動を周知する。	4	/	4	/	○子供たちの普段の言葉遣いや行動から思いやりや心は育っているように感じる。 ○学校教育目標や学年目標を適宜振り返り、思いやりや心の育成に努めることができていく。 ○7月に特別支援教室の教員と共に多様な理解学習を行うことができた。 △児童の人権感覚の向上やいじめの未然防止に対しては、組織的・計画的に進める必要がある。	・学年や学校全体で組織的ないじめの未然防止や早期対応に取り組むとともに、人権教育に重点を置いた取組を継続していく。 ・児童会を中心に「自分から積極的にあいさつできる」取組を継続して行う。
	・道徳教育の推進 ・特別活動の充実	・考え方の違いを認め、自らの考えを深める指導を工夫する。 ・体験を通して、互いに理解し合い尊重し合える活動を実施する。	・各学級で月1回程度の学級会を実施し、コミュニケーション能力と合意形成を図る力を育成する。 ・年間通じてたてわり班活動を行い、様々な人と楽しく触れ合い、協力し合う活動を工夫する。	4	/	4	/	○学級会を重ねていく中で、合意形成を図ることができるようになっていく。また、自分の意見を述べようとする意欲も高まってきている。 ○下学年を思いやる行動や言葉が見られたり、上学年と楽しむ姿が見られたりした。	・友達の気持ちを考えながら話を聞けるようになっていくなど、相手の立場になって考える指導を工夫する。 ・下学年では一単位時間の中で前半話し合い、後半実践することで合意形成の意義を体感させていく。 ・上学年では、出てきた意見から新たな考えを生み出すなど、創意工夫を生かして合意形成が図れるように指導していく。
健やかな体の育成	・すすんで運動に取り組む意欲と体力の向上	・児童の実態や発達段階に応じた指導の充実を図る。	・指導内容の系統性を考慮した授業改善に取り組む。 ・体育的な活動を毎時間の授業に取り入れ、運動への意欲と体力の向上を図る。	3	/	4	/	○児童の到達具合に合わせて場の設定を工夫し、授業を行うことができた。 ○学習カードやホワイトボードの活用など、ねらいを明確にして学習できた。 △校庭での体育が1クラスに限られたり、熱中症対策として校庭が使えなかったりして、体育の授業の時間の確保に苦慮している。	・体育的活動の流れや場の使い方など、個別最適な学習につながる工夫をする。 ・狭い場所での効果的な運動を研究していく。
	・食育や保健指導の充実	・健康についての正しい理解と留意する意識を高める指導を実施する。 ・食への関心を高める。	・毎学期1回の保健指導と毎月1回保健だよりを発行し啓発に取り組む。 ・家庭科の学習や栄養士による指導で学んだことを生かし、年間1回ランチルーム給食を行う。	4	/	4	/	○定期的な保健指導で、児童の健康への正しい理解につながることができている。 ○定期的な保健指導以外でも、気候の変化や感染状況等に応じて、指導することができている。	・保健指導したことが実践できるように、定期的かつ繰り返し指導していく。
家庭・地域等との連携の推進	・地域、保護者との連携及び地域の特色を生かした教育活動	・中学校区での連携を推進する。	・国分寺学や教科担任制等共通のテーマを設定し、実践を交流する。 ・地域の自然や文化・伝統に触れる環境づくりをする。	2	/	4	/	○中学校区での連携では、授業研究を実施して情報共有ができていく。 ○国分寺学の実践記録を地域マップに残していくことで、地域のことについてよく考える児童が増えたと感じる。 △指導計画の練り直しや資料等の開発、地域人材の確保をしていく必要がある。	・今年度実施した学習を整理して、次年度に引き継げるように整理していく。 ・国分寺学のねらいとする「地域に親しみ、学び、考え、貢献する児童」を系統的にイメージして指導を工夫していく。
	・「見える学校」「話のできる学校」による開かれた学校づくり	・地域人材の発掘、及び地域の教育資源の積極的に活用する。 ・学校だよりや学年・学級からのお知らせ、ブログを通して積極的に情報を発信する。	・保護者や地域ボランティアへ積極的に教育活動への参加を呼び掛ける。 ・日々各学年に関する出来事や様子をブログで発信する。学級だよりまたは学級ブログは毎月1回以上発行する。	3	/	2	/	○ブログは校長が頻りに更新している。学級担任は、学級通信で児童の様子を伝えていく。 △学級便りの発行日を決めて計画的に発信していく。	・保護者の理解を一層深めるための発信内容の精選を図っていく。